

資料 1

古民家移築再生整備事業公募型プロポーザル募集資料

1 歴 史

明治20年代以降、厚真町には、北海道開拓に希望を託した多くの人たちが全国各地から入植した。入植者は、原生林や未開の原野の開墾を進め、少しずつ生活が安定してきた明治期後半から大正期にかけて、自分たちの出身地方の建築様式により住宅の建築を行なった。

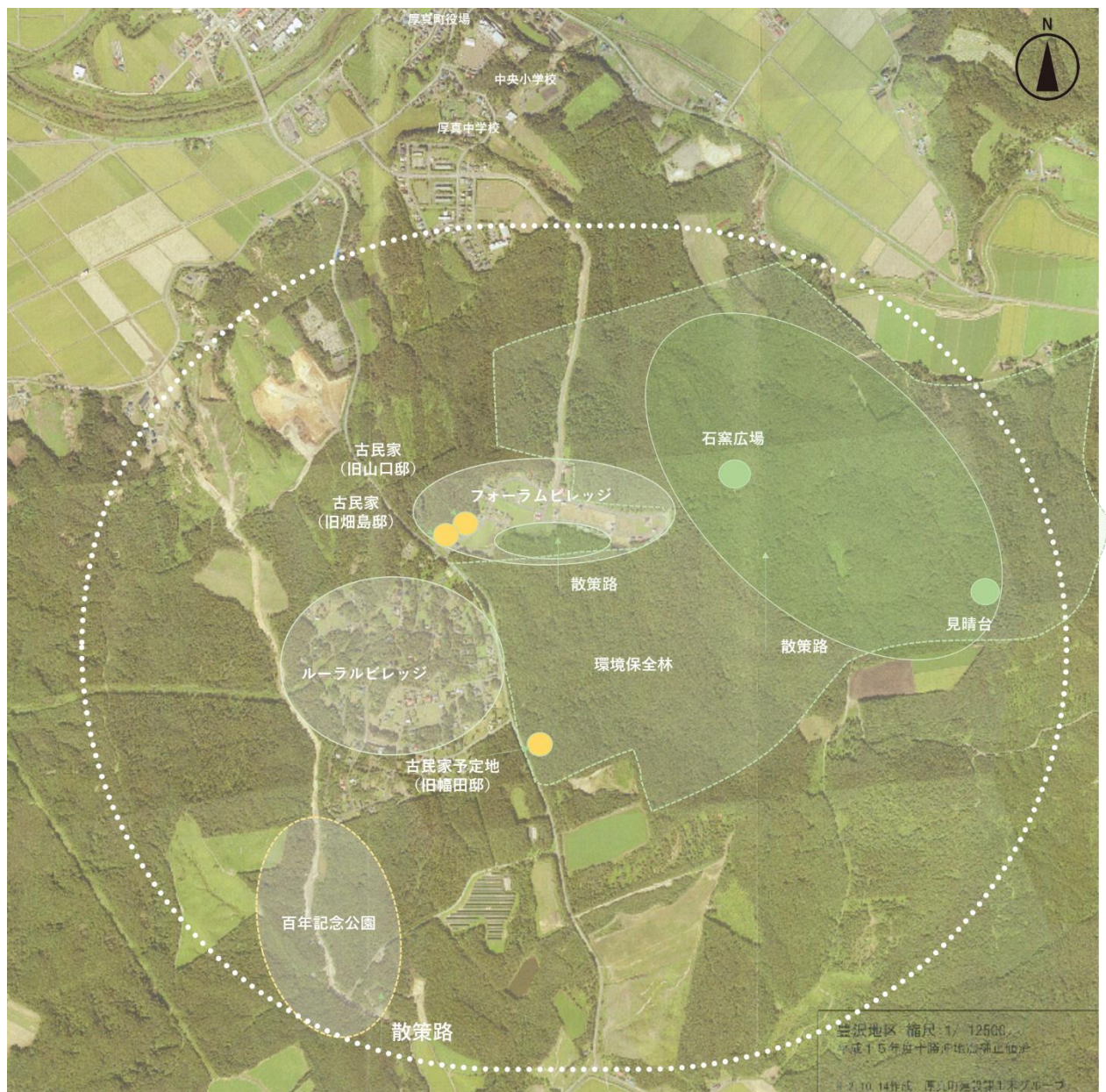
当該古民家は、富山県出身の幅田氏（故人）により明治33年（1900年）に、富山から連れてきた大工により富山から運んだ材料を使用して町内朝日地区に建築されたもので、出身地の富山県砺波地方の民家によく見られる越中型民家の遺構である。

この古民家は、越中型民家の特徴である杢の内構法が用いられ、広間には梁組がキ型で、広間中央に架かる牛梁を2本の柱が直接支えている。砺波地方では大正期にアズマダチに変わり見られなくなる形式である。広間の上手には座敷があり、床の間を設け仏壇が置かれ、帯戸・欄間の意匠に優れている。登録文化財指定が可能な形での再生を予定している。

2 位 置 図

（1）周辺の概況

- ① 旧畑島邸 豊沢240－80
- ② 旧山口邸 豊沢240－79
- ③ 環境保全林・散策路・石窯広場・見晴台
- ④ 百年記念公園・散策路
- ⑤ フォーラムビレッジ・散策路
- ⑥ ルーラルビレッジ



(2) 旧幅田邸位置図

【資料 2－1】

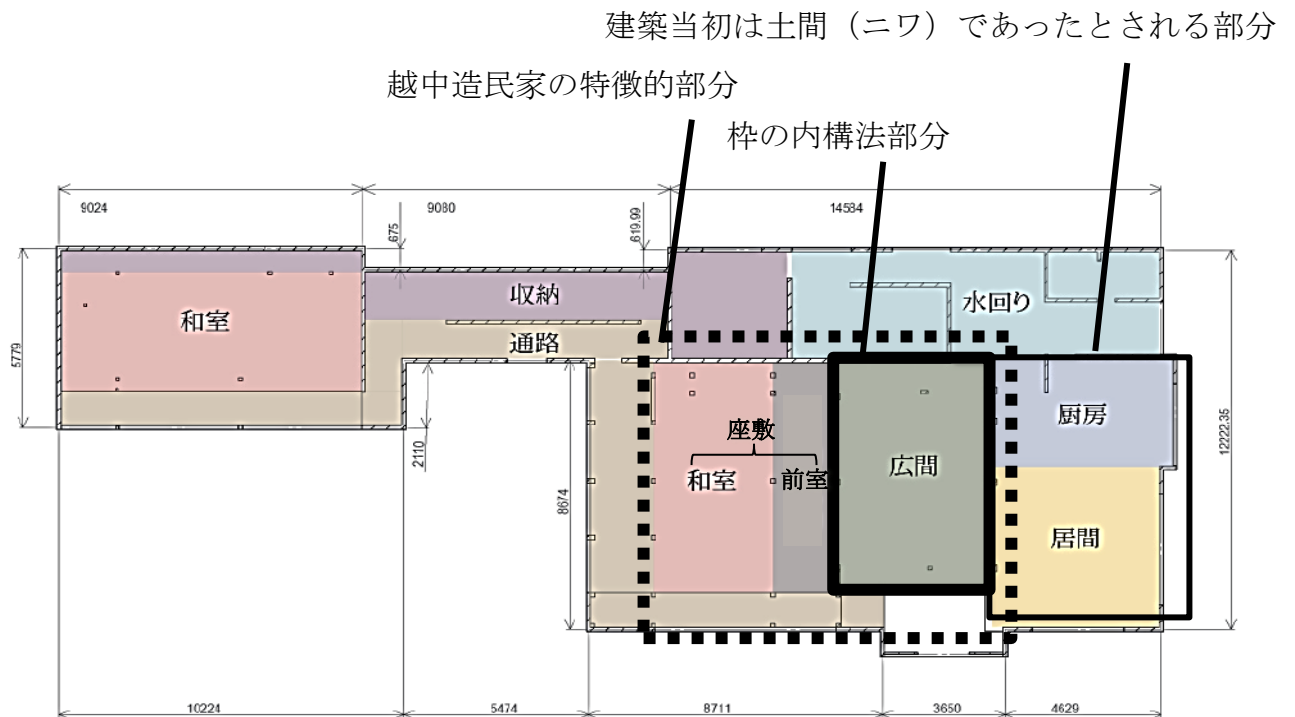
(3) 環境保全林散策路

【資料 6】

3 配置図案

【資料 2－2】【資料 2－3】

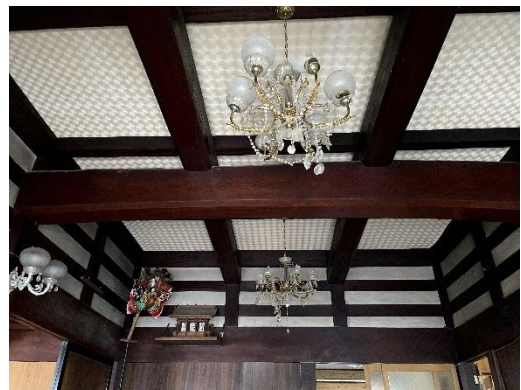
4 解体前見取り図



5 幅田邸（越中造民家、枅の内構法）

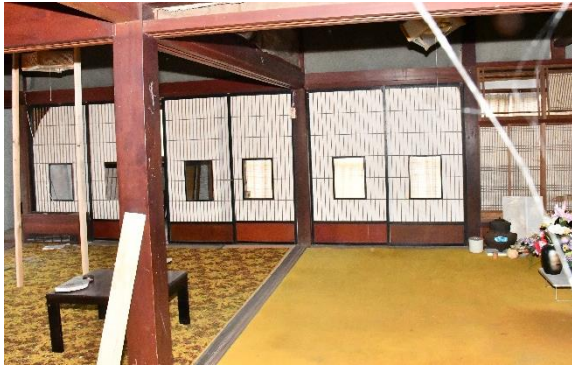


外観（2階部分は再生しない）



広間（枅の内構法）

※建築当初の小屋組み不明



座敷



帯戸



欄間



玄関天井

6 古民家解体実施設計

【資料4】

7 再生事例 旧畑島家住宅（越中造民家、粋の内構法）



8 再生予定古民家

（1） 旧幅田邸（蔵）



外観



2階天井



入口



内壁

(2) 旧宮崎邸



天井



外壁（解体中）



構造（解体中）

(3) 旧宮崎邸（納屋）



外観



梁組（解体中）



2 階梁組（解体前）